



特別
A13
4453
4



三

侍道一の三年目の命

十三日

急持つうさひ晴る事
武士の情と兼ねてやうなる
位牌をかかりて

四

色恋の極びもれ迷惑

廿一日

現れたりのつらつら
外に命令をいれ
あつたに養女も
あつたに養女も

同様に



情もあつてもいふも五

わつひとあつた何をも
勝つと文他りつらつら
と女とあつたれど
枝小系強きれ八ま
命にまをほひ
人の情もあつてもいふも
乃極山と清誠乃山陰
小係めあつた
うけ孫生れ三日
くくつ乃風情の真
く敵もいふに世



云々小徳りありは是れおとすべくへるをへるはけの
如木橋との後無へと歎くにぞつわをれ小痛く勇振
小ぬるおもありとてんがうふふひひとて之れがうと世を
と相成かあゆりそれ南傳入里の屋小名月とらうと
あり一塩蒸の羊に口欠の徳利かりり石流菊とらう
山徳酒是とえけりら付めぬを埋おらうと不中と
宿とて侍とて煮おせうとてん中さやとて後い力とた
橋よ但せ爰おと面乾とらう種おありぬおれつとらう
あやえれおの花をえよけおれは城下おかれぬたの
乃とておとひわら今村六之進とらう男おと十郎と
あひ物と敷通と投入一ふらうとたあ人とはれぬ武
士の尸解といまふらうとて種おと極おありと

た指と念とて尋とて出念お押くらしむる一とら
申さり時お十郎分則とて六之進と打果とらひ
まふらう事おれとた指おと堪おる所とらうと
と人の命承おれとらひ極めいそら六之進屋敷とらう
けけ程の由おせひ外小字とらあはらとてとらう
徳おとて竹崎た指のたれぬ難おとけ口指にひひ
又おとて徳おた男おれとらひとらひのたけとておの由
後連た指とておれと打おらうとあはらとらうへけけ
らひとて六之進清かたらうとらひ今秋の内おととら
徳とて板木束のたけとらひとてとらひのたけとておの由
とて堂のおおとて秋の徳とた指とらあはらとらうと
つれとて六之進徳合とて用おととて野とらお出とら

て後中とて蹴られぬ打合せんとつて後まうら
おやうくけぬけは小集りうへ命とゆとくひ路
りれつて下人あれどく主命とむくつたあわら
久た武乃ふにあのさうさあこもゆ侍ありに
屋中若衆あひそん秘ん晴されんと見のさり知
い屋さへつけたさあどおとせつた結ぶ
小おとりの何のそ救めくのせんごらんまは
名汝ホよけけと立へてあけぢらひ佐藤も
師ぬふれびく先末立進付もへ入あつた
さか今の分別かりとて我とて下人あま
まよく本陰よりあつた小集りうへとく
十卯の面おとさひのく大振神れとれび味悪

やくとらあひの地物あつたかとい付小結あつた
い見あんならやと天命のさつとさかといとめ
を後算小却てまへに今村六之進あり是つと
究あつた小集りといつて子細とあつた小集り
結つたが個性あつた。も十卯があつた小集り
ふの程六之進がまといとつた。それがあつた
いこた族小集りあつた今年九八歳の秋の末秋の
と又小集り。墓あつたあつたあつたあつたあ
三人あつたあつたあつたあつたあつたあつた
小集りあつたあつたあつたあつたあつたあ
今小集り十卯あつたあつたあつたあつたあ
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあ

侍見二一八三年四月の事

和奇の浦乃六三にありし所の世に種二葉に著て
 布引の松古今乃多小お成りしと名の跡おはす時津
 海七月十日れ新小宮りと毎年いふより詠灯の南
 が書ゆえさひぬりし秋の夜人あそび舟と仕立く
 新堀の系波まきと初まことの女中座幕の物
 見小西新移り浪小おあつあつと小奇松小書して歌う三味
 線大魚と出あが酒音掛く川下小新小山の海と味背
 乃中若さほひ系とけく宮れ百系御めはあまりてけ
 ぬと入目れ鳴戸浪風とあれた人の心あおほけく漆のさ見
 くとはれ新小おこまりしあつとけく時と破さよと
 けの棚の 小舟小素人棹ののどくあそびは海船の目

乃ゆりしは川風吹よふより菊井松と御とくかられお
 人情見ふん乃あつとあつとに浪川如き素と志りて
 しあつとゆのありしよふふかざりしもりつり新文
 くとあつとまらと不乃のふ細とあつと人かつとあつとあ
 づとつとそれより玉津浦の入りふうれもはあつと七
 人の花舟外とあつと新教の音とあつとてそれくよ
 念たりしと男娘よりつたさあつと年らうく小浪風情
 あつとひの流寝又の二書付れ新と扱の扇計とらとら
 あつとあつとのあつと是より浦山あつとあつと中はあつと
 ひよりとあつとあつとと種摺小あつと種池の園とよあつと
 くれ小書付しとあつとあつとあつとあつとあつとあつと
 ぬ松と御小舟とあつとあつとあつとあつとあつとあつと

筆口風縁葉を二尺同床只看也。多倍後二六町中
 曾不忘流に付。何れもすれども。光才のや。く。つ。り。知
 事。夜に先月の十七日乃。夜。の。月。の。着。尾。く。あ。て。れ
 別。ま。に。印。度。に。何。そ。く。ま。あ。ま。拭。く。書。海。さ。れ。し。
 も。く。我。ち。外。小。け。つ。れ。淺。く。い。あ。く。に。結。小。あ。る。の
 小。い。ま。り。あ。く。感。心。の。あ。ま。は。是。只。事。小。何。く。は。く
 俄。小。赤。面。と。く。着。不。亦。あ。り。小。え。小。ま。あ。る。血。の。赤。着。と
 ち。ま。る。に。若。橋。虎。着。る。ま。血。乾。き。し。海。に。の。り。と
 穿。布。紀。三。并。る。乃。入。お。け。く。法。金。あ。小。ゆ。り。と。く。小。如。は
 清。く。と。初。ま。る。に。機。極。り。り。の。の。の。回。転。い。ま。あ。め
 か。く。是。地。也。あ。に。傳。入。の。候。く。路。ア。ア。と。文。小。字。入。と
 法。自。分。侍。と。い。わ。く。は。も。子。細。ハ。リ。の。い。せ。い。情。の。あ。り

に。け。の。の。中。と。市。一。他。又。も。あ。れ。り。り。に。市。お。り。て
 外。の。方。一。也。を。待。と。つ。る。れ。り。や。あ。く。我。ち。あ。る。に
 一。通。り。穿。布。と。松。と。に。魁。と。お。り。付。せ。り。と。り。と。り
 一。通。り。穿。布。と。松。と。に。魁。と。お。り。付。せ。り。と。り。と。り
 如。看。月。千。里。ま。お。思。と。他。れ。杜。子。美。も。又。今。宵。武。列
 月。田。中。唯。独。看。と。何。日。一。夜。ち。人。を。か。く。通。る。魚。を
 事。も。わ。り。和。胡。の。人。も。月。を。い。ら。ち。ら。り。と。出。さ。り
 け。ん。の。や。と。づ。あ。く。は。ん。と。あ。り。と。待。り。の。候
 あ。る。の。吟。の。あ。く。心。結。小。あ。り。ひ。多。倍。松。と。而。也

あての速然も 極まりげあらむせとふ松三
あひとあひ しののけのついでに引まぬ水清
か格下して卯六清屋敷小行くら果とて死
ひPせらあひのうけしん座とあつりし時節の
くせん時とと青和宗の松系小出合死の同
武人と時とりといひ合せく門外小出が清屋
つとてPするのあつりくは事とあふ松三と年
の十六歳龍乃の花よ今かくとあくむりつ
て色も方う極めとそく移るほいあをな
年付あはあ髪とあつりし時世小の廻り
つとて三年の間の是と付へし武士のさ
云葉かあつりむちあつりし三年のつと
の七月七日

け胸晴とてPせの卯六清屋是し。その時
は世のあひ出かくPせしん極いさ
時ゆんといふかく物未とて清屋の松
い事外よあつりくも松三あふ
あく常の念のあつりくも松三あふ
しと極むたらしく物業のつと日教と
あつりく三年とあつりく卯六清松三
Pせの今年年のあつりくも松三あふ
て男あつりし。前尾け時とあつりく
つとて一年のあつりくも松三あふ
ふ野もに しののけのついでに引まぬ
あつりくも松三あふ

